

最後の思い出づくり レク大会・送る会



県立高校の前期選抜が終了すると、三年生は卒業式まで残すところ一週間となります。それまで、受験に向けて張り詰めていた気持ちも幾分か緩み、残り少ない中学校生活を充実したものにしよう、気持ちも高まります。そんな時間を利用して、一、二年生が、三年生との最後の思い出づくりのため、レクリエーション大会と三年生を送る会を企画し、行いました。生徒会役員が中心となり、これまで後輩である自分たちを導き、成長させてくれた三年生に感謝の気持ちを伝えるべく、工夫を凝らした楽しい企画をたくさん準備しました。この後輩の気持ちに三年生は、一人一人に交えた手紙と、歌に込めた思いが、温かい気持ちに溢れた、とても良い時間が流れていきました。



今月の1枚

卒業を迎えて 3月12日(金)

卒業式を終え、15年間の感謝の気持ちを伝える



巣立ちの時 突き進め! 次のステージへ



感動の卒業証書授与式

[教育目標]
心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和3年3月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://nishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



三月十二日(金)本校体育館におきまして、令和二年度の卒業証書授与式を挙行了しました。昨年と同じく、コロナ禍により、ご来賓の方々のご臨席は叶いませんでしたが、この状況下でできる最大限のことで、卒業生を送り出そうと、在校生そして教職員で力を合わせて行いました。昨年三月、突然やってきた全国一斉の臨時休業、そこからもう一年が経ちました。これほどまで長引くことになるとは、当初予想もしておりませんでした。四月、新年度を迎えたものの、準備、予定していた沖繩への修学旅行は実施できない状況に。五月になって、六月になって、状況は改善されず、ついには最後の中体連までもが中止になってしまいました。

本来、中学三年生が、中学校生活の集大成として行う、大きな行事ができない状況で、時だけが過ぎていきました。このまま、何もできないのか、この先、どうなってしまうのだろうか、不安でいっぱいだったのではないかと思います。このような局面でも、五人という、本校では最小集団である三年生は、下を向くどころか、下級生をぐいぐい引っ張っていき、中体連の代替試合で、大活躍をします。時期や行き先が変更になった修学旅行が、桐陽祭の準備真っ只中に入り、行事の共倒れが危ぶまれましたが、充実した修学旅行を堪能し、桐陽祭では三年生ここにける素晴らしき活躍で、保護者そして下級生の目を釘付けにしました。年明けに行われた、三島町次世代の議会、高校受験の時期に入り、なかなか準備に時間をかけることのできない中でも、大人を相手に堂々と渡り合う姿は、もう下級生

たちの憧れの的でしょうか。この三年生の姿を見た一、二年生は、三年生が引退した後の部活動で、卓球個人で支部優勝を果たしたり、バレーが全会津を制覇し県大会に出場したりしました。また、三年生が第一線を退いた後の生徒会総会においても、めざましく成長した姿を見せてくれました。コロナ禍という誰も経験したことがない苦難の中学校生活、そこから這い上がった三年生の姿が、下級生の心を動かし、成長を促したのです。三年生の残した功績は実に大きいものです。こうして、未来を変え、未来を創り上げていく力が、子どもたちにはあります。中学校を卒業し、五人それぞれが次のステージに向かいます。日本でもワクチンの接種が始まりましたが、まだまだ終息は見えない状況で、思うような学校生活にはならないかも知れません。それでも、下を向かず未来に向かって力強く進んでほしい、そう願います。